第3期帯広市まち・ひと・しごと創生総合戦略(原案)への意見等と対応(令和6年度第4回総合計画策定審議会)

意見番号	頁	該当箇所	主なご意見の概要	意見等への対応	担当部
1	9，26	人口ビジョン	9ページの「図6帯広市の総人口と年齢3区分別人口の推移」で示されている社人研推計値が、将来展望人口のように見えてしまうため、26ページの将来展望人口と混乱しないように整理する必要があるのではないか。	【ご意見を踏まえ、以下のとおり修正しました】 9ページの社人研推計値に関する記載を削除したうえで、26ページの帯広市の将来展望人口に参考として社人研推計値を併記し、比較できるようにしました。	政策推進部
2	28	基本方針	厳しい将来展望人口を踏まえ、危機意識を共有するため、基本方針にも人口減少の状況について強い表現が必要ではないか。	【ご意見を踏まえ、以下のとおり加筆しました】 基本方針の1行目 「人口減少が加速し、(本格的な人口減少社会を迎える中、)」	政策推進部
3	33	(1) 新たな「しごと」を創り出す ③　産業人の育成 ア) 次世代の担い手育成	人材の確保の取り組みとして、地域で活躍するデジタル技術者の育成を加えるべきではないか。	【ご意見への回答】 新たな総合戦略は、人口減少下においても活力ある地域づくりを進めるため「地域の強みを活かした仕事づくり」に取り組む計画としており、こうした視点で人材確保の取り組みが重要と考えています。 このため、地域の基幹産業である農業や関連産業の振興、それに関わるリーダー人材の育成などを推進することとしています。	経済部
4	33，42	(1) 新たな「しごと」を創り出す ②　産業基盤の強化 ウ) 人材の確保 (4) 快適でいきいきと暮らせるまちをつくる ①　支え合いの地域づくり イ) 外国人が生活しやすい環境づくり	外国人労働者をしっかりと確保していくことが大切である。そのための組織体制の整備など、具体的な取り組みを積極的に進めていく必要があるのではないか。	【ご意見への回答】 外国人全体の受入枠や制度の拡充は国が方針を決めているため、帯広市としては暮らしやすい生活環境の整備を中心に取り組むこととしており、新たな総合戦略においても生活に必要な情報提供や生活相談への対応などを進めてまいります。	経済部
5	37	(2)十勝・帯広への「ひと」の流れをつくる ②地域特性を活かした”十勝観光”の展開 イ)インバウンド誘客の促進	インバウンドに力を入れている地域では、客数が倍増しており、今後、帯広市もインバウンドに力を入れるのであれば目標値が低いのではないか。	【ご意見を踏まえ、以下のとおり修正しました】 新型コロナウイルス感染症拡大前の水準に戻すことを目指し、拡大前の3年間の平均値(26,370人)を目標値に設定していましたが、インバウンド誘客の取り組みを強化することを踏まえ、道内空港への国際線の就航件数の増加などにより突出して過去最大となった平成30年度の実績値(41,060人)を目標値とするものです。	経済部
6	35	(2)十勝・帯広への「ひと」の流れをつくる ①移住定住の促進 ア)ふるさと教育の推進	ふるさと教育の推進の KPIについて、「全国学力学習状況調査で地域や社会を良くするために何をすべきかを考えることがありますか」という質問に出してイエスかノーで答えるアンケート結果は、KPIとして妥当か。	【ご意見への回答】 指標については、取り組みとの連動性はもとより、統計数値としての連続性が確保できることなどを考慮して設定する必要があります。当該取組項目においては、設定できる指標が限られる中、「おびひろ市民学」などの取り組みを進めていることなども踏まえ、引き続き、当該指標を設定するものです。	学校教育部

第3期帯広市まち・ひと・しごと創生総合戦略(原案)への意見等と対応(令和6年度第4回総合計画策定審議会)

意見番号	頁	該当箇所	主なご意見の概要	意見等への対応	担当部
7	40	(3)結婚・出産・子育ての希望をかなえる ②こどもを安心して育てられる環境づくり イ)教育環境の確保	教育環境の確保の KPI について、「小中学校9年間を見通した授業を行っている小学校の割合」が教育環境の確保とリンクしていないのではないか。子供が安心して過ごせる居場所を提供したいという取り組みに対して9年間の一貫教育がKPIに設定されているところに違和感がある。	【ご意見を踏まえ、以下のとおり修正しました】 子どもの健やかな成長を支えるという目的との関係性をより明確にするため、ICTを活用した教育環境の整備や授業の質の向上の成果をはかる指標として、「授業でコンピュータなどのICTを活用したいと思う中学生の割合」に変更するものです。	学校教育部
8	39	(3)結婚・出産・子育ての希望をかなえる ②こどもを安心して育てられる環境づくり ア)子育てしやすい環境づくり	KPIの「保育所等の待機児童数0人」は、既に達成されているなかで、KPIとする必要があるのか。別の指標を設定してはいかがか。	【ご意見への回答】 保育士の確保や入所調整などに取り組み、年度当初の待機児童は0人で推移しているが、年度途中では依然、待機児童が発生しているため、今後も本指標を継続し、取り組んでいく必要があるものと考えております。	市民福祉部
9	44	(4)快適でいきいきと暮らせるまちをつくる ②快適な都市環境の確保 イ)地域公共交通の確保	「都市機能の確保」のKPIとして「空き家の利活用・除却件数」はふさわしくないのではないか。立地適正化計画の策定に関する指標にすべきではないか。また、地域公共交通の確保も一体的に取り組む必要があるのではないか。	【ご意見を踏まえ、以下のとおり修正しました】 今後、長期的な視点で生活サービス機能や居住の誘導と公共交通ネットワークの形成に連携して取り組む「立地適正化計画」を作成することとしており、「イ地域公共交通の確保」と「ウ都市機能の確保」を統合しました。 統合した取組項目に連動する指標については、市街地で人口密度の減少が進むことが想定される中、都市の居住環境を維持していくためには、既存ストックの適正管理や利活用は重要な取り組みであることから「空き家の利活用・除却件数」を設定するものです。	都市環境部
10	43	(4)快適でいきいきとと暮らせるまちをつくる ②快適な都市環境の確保 ウ)都市機能の確保	「地域公共交通の確保」のKPI「路線バス年間利用者数」のR11年度目標値321万人の達成は難しいと考える。また、モビリティとまちづくりを一体的に考える交通政策の策定を計画に記載することが必要ではないか。		都市環境部